

Berlin Report

November 2021

CONTENTS

- * Project 1: Palais am Funkturm (Bar Convent Berlin)
- * Project 2: KaDeWe

1. Palais am Funkturm (Bar Convent Berlin)

Project Overview

ここ数年、ドイツでは「バビロン・ベルリン」や「クイーンズ・ギャンビット」、その前は「マッドメン」などシリーズドラマのヒットが影響し 1930 年～60 年代のレトロなインテリアの人气が再燃中。今年、リアル開催された大規模イベントの一つであるバー&スピリッツの欧州最大のトレードフェア「バー・コンヴェント・ベルリン」でも、会場の一部が 1950 年～60 年代風のポップアップ・バーと VIP ラウンジとなっており、注目を集めた。

会場となった「Palais am Funkturm」は、1956 年～1957 年に当時としては最新の催事場として作られた建物だ。中央のダンスホールだった部分には大きな吹き抜けがあり、蛇腹のようなフォルムのプラスチックとガラス素材の照明が印象的だ。少し丸みを帯びたバーカウンター、明るい色の木の壁に開けられたコロンとした窓枠の小さな窓など、もともとの空間と建築にミッドセンチュリーらしさが色濃く残っているのが、市内のアンティーク家具店とコラボレーションして、バウハウスミッドセンチュリーの家具をレンタルで配置している。1950～60 年代に流行った観葉植物、シュロチクもポイントだ。南・東向きファサードは大きなガラス窓になっていて自然光がたっぷりと差し込むが、天井がそれほど高くないので、現代的な明るさがないのもいい。全体的に重心の低い家具を揃えているので圧迫感を与えず、しかし寛げる雰囲気がある。使い込まれた革のソファには古き良き時代のバーの趣もあり、バー、スピリッツ関係者のビジネスミーティングの盛り上がりにも一役買ったようだ。

Project Details

1. Type of Business : trade fair stand
2. Open Date: 11/10/2021 – 13/10/2021
3. Location: Hammarskjöldplatz, 14055 Berlin
4. Size: 840 m2, 2 Floor
5. Interior: ZEITLOS – BERLIN Architects: Bruno Grimmek with Werner Düttmann

Location Map





上：南向きの壁には小さな窓が。丸みを帯びた窓枠やバーカウンターのフォルムがどこか近未来的だが木の壁が 1950 年代らしい。柱のブルーグリーンとカウンターのオレンジがかった赤がアクセント。

下：大きな吹き抜けには、独特な形をした大きな照明が。高さも変えられる。





天井の換気、通気口などを隠すために、天井から下がっているオブジェも興味深い。ミッドセンチュリーらしい丸い吊りランプが印象的。



上：Palais am Funkturm は実は、Netflix の大ヒットシリーズ「クイーンズギャング」のロケ地でもある。1950 年代のラスヴェガスのホテルとして撮影された。外観は 50 年代から変わらない。下左：右写真の場所を中から見たところ）下右：モザイクタイルに黄色の窓枠、文字看板がポップ。





ファサードを覆うブルーグレーのモザイクタイルと対応する独特な模様の絨毯、ブルーグリーンの壁の前に濃い茶色の使い込まれたソファを置いている。観葉植物の鉢植えなどといまって老舗ホテルのロビーのようでもある。古びてはいるが花瓶などの小物で清潔感を感じさせている。

2. KaDeWe

Project Overview

ロンドンのハロッズに並ぶ欧州最大級の高級老舗百貨店「KaDeWe」。創業 1907 年、100 年以上の歴史を誇るデパートメントストアではあるが、近年の業績不振で 10 年ほど前に倒産、経営者も何度か代わり大々的な再建計画を進める必要に迫られていた。そのフロアリニューアル計画の一つであるレム・コールハース率いる OMA が手がけたウッドクラッドのエスカレーターが今秋完成。エスカレーターの動きを生かして全フロアに広がっていくファッションショーで、華々しくお披露目を迎えた。

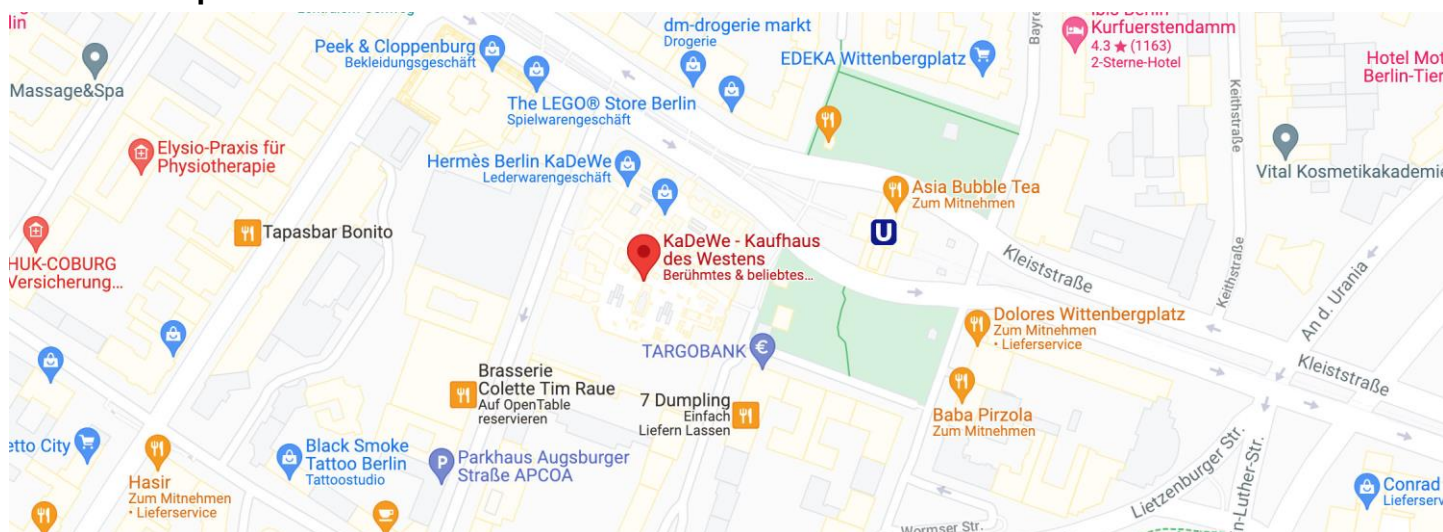
デパートのエスカレーターといえばただフロアを上下するだけのものというイメージがあるが、OMA のエスカレーターは複雑に交差している。これは KaDeWe を街の一部として捉え、街の動きを巻き込むようにしたかったからだ。プロジェクトリーダーの Ellen van Loon は語る。次のフロアに移動する際に、常に違う場所に到着する驚きをもたらしたいと、エレベーターの位置だけでなくフロアの素材にも変化をつけた。明るい色の石材(ヤングファッション)、モザイクフローリング(高級ファッション)、パステルカラーのパネル(キッズ、書籍など)など。「1つの屋根の下に全てが揃う百貨店という存在は、オンラインに取って代わられた。それでも KaDeWe に足を運びたいと思ってもらえるようにするには、この場所を驚きやインスピレーションを与える存在にすること。ワクワクと喜びを与える空間にしたかった」と。どのフロアにいても目に入る、生き生きと動きのあるフォルム、一方、落ち着いてエレガントな素材感。このエレベーターに乗ったら、次はどこに連れて行ってくれるのだろうか？そんな高揚感と期待を与えてくれる。KaDeWe は OMA 設計でウィーンにも新店舗を出す予定。次の展開も気になるところだ。

Project Details

1. Type of Business : Department Store
2. Open Date: 31/09/2021
3. Location: Tauentzienstrasse 21-24, 10789 Berlin
4. Size: 6 Floor
5. Architect: OMA / Ellen van Loon, Rem Koolhaas

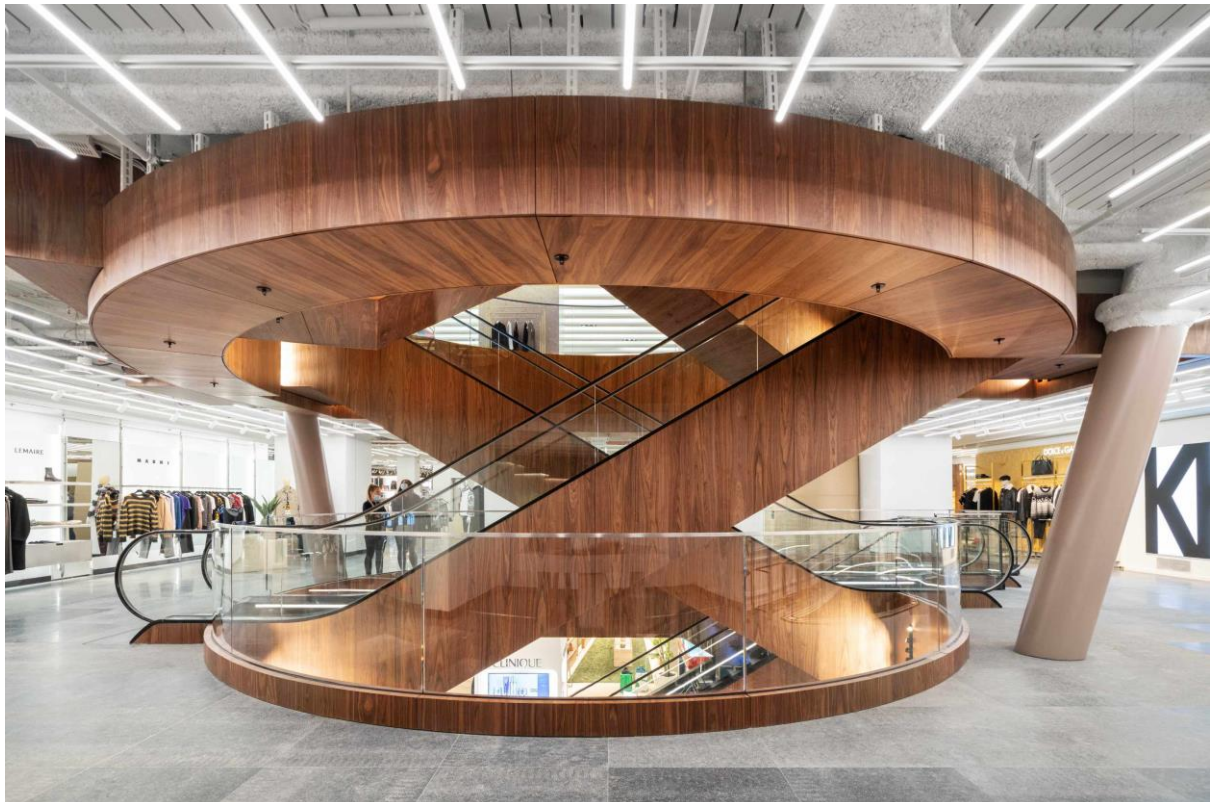
Photos (c) Marco Cappelletti

Location Map





思わず見下ろしてみたいくなる、次のフロアが気になる、動きのあるエスカレーター。到着場所を全て変えている。



横から見ると、何かのオブジェのようにも見えるフォルム。明るい色合いで圧迫感を感じさせない。